

平成22年（第4回）みどりの学術賞 選考委員会委員長コメント

平成22年（第4回）みどりの学術賞の選考にあたって、選考委員会は、「みどり」に関する学術に造詣の深い学識経験者等約330名に対し、この賞にふさわしい候補者の推薦を依頼しました。その結果、約70名の推薦が得られましたが、分子・細胞レベルで植物の営みを研究している方から、地球規模で生態系の研究をしている方まで、実に多様な分野からお名前が挙がり、改めて「みどり」という言葉のもつ幅広さ、奥深さを思い知らされた次第です。

細胞生物学の分野で、葉緑体とミトコンドリアという、植物が太陽のエネルギーを利用するための必須の機能を担う細胞小器官の分裂・増殖・遺伝の仕組みを明らかにした黒岩常祥博士、森林植物学の分野で、森林における樹木とキノコなどの生命間の相互作用を明らかにした鈴木和夫博士、今回の受賞者お二人の研究は、細胞、森林という異なるレベルにおける生命の共生の在り方の一端を明らかにされたものです。我々人間が「みどり」と共に生きるにはどうすればよいか、細胞や森林の中にみられる共生の在り方に学ぶことも多いのではないのでしょうか。「みどり」に関する学術がそうした知恵をもたらし、社会を動かす力になることを、選考委員会として心から期待し、念願するものであります

平成22年3月5日

みどりの学術賞選考委員会委員長
常脇 恒一郎